

市立川西病院市民モニター会議（第7回）会議要旨

日時：令和3年12月10日（金）
午前10時00分～
場所：川西市役所 202会議室

1. 開会

前任期満了から再任にかかる、会長及び副会長の再選出

会長：北陵コミュニティ協議会 相談役 加門 文男

副会長：牧の台コミュニティ協議会 会長 南野 繁夫

2. 議事

（1）市立川西病院に関する意見交換について

ア. 市立川西病院の全般について

資料3「一日平均患者数の推移」資料4「患者数月別集計表」に沿って、指定管理者から説明

指定管理者： 市立川西病院では、発熱外来を実施するとともに、新型コロナウイルス感染症（※以下、コロナという）の陽性者の入院受入れを県内でも早くから実施してきた。

入院患者数については、コロナの第4波の影響で5月に142.2人とピークに達し、第4波が収束するにつれて7月に104.6人と底をうった。その後第5波の推移に付随するかたちで増減しており、速報にはなるが11月には100人を切るような状況である。

外来患者数についても、発熱外来の受診者数の増減に影響を受け、第4波、第5波の動きに準じて増減している。

また、資料4の患者数月別集計表については、全ての診療科の医師でコロナ患者の対応をしているため、内科だけの増減ではないことをご承知いただきたい。

委員： 11月の外来患者数の速報値はでているのか。

指定管理者： 外来に関しては手元にないため、後日改めて説明する。

委員： コロナの具体的な患者数を、会議の資料として出してはどうか。

指定管理者： これまで公表を控えていたこともあり、今回は見送った。

事務局： コロナの流行が始まった当初は、国や県からは公表を差し控えるように指示が出ており、現時点においても公表に関して明確な指示が出ている訳ではない。

ただ12月に、阪神間のコロナ病床は426床程あり、そのうち川西市で83床、そのうち市立川西病院は30床確保しているという報道があった。

川西市の人口は阪神間の中で10%に満たない割合であるが、確保しているコロナ病床数の割合は約20%になる。法人全体が一丸となって取り組んでくれた結果だと考えている。

受入れ患者数については、厚生労働省のホームページで公表されているので、そちらを参照していただきたい。

委員： 今年の4月に小児科の発達外来を開始して約半年程経つが、患者数は伸びているのか。

また発達外来専門医が赴任したことについてPRは行っているのか。

指定管理者： 発達外来の患者数は多く、月曜日から金曜日でまかないきれない分は、土曜日まで診療日を拡げることで補っている。土曜日についても1日に25人程度受診されており非常に多いが、それ以外の小児患者に関しては、コロナ流行による受診控えやインフルエンザ等の感染症が激減していることから、小児科全体の患者数としては減少している。

PRについては、様々なところからご紹介をいただいております、既にキャパシティ越えをしているため積極的なPRは控えているが、新病院開院後キャパシティが拡がった際には、積極的なPRを行っていこうと考えている。

委員： 発熱外来の流れと、他院の状況は？

指定管理者： 発熱外来のルートは2種類あり、保健所からの紹介と患者から直接連絡を受ける場合がある。いずれの場合も、風除室や車の中で待機してもらい、看護師がトリアージを行い、感染対策を施しながら抗原検査やPCR検査を行う。

他院は、知っている限りでは協立病院でも発熱外来を行っている。

委員： 市民からすると、コロナ疑いの際にどこに連絡をしたらいいのかなど不安が多いので、そこがクリアになると良いと思う。

事務局： まずは、かかりつけ医へ電話連絡をし、その指示にしたがって受診してもらいたい。

委員： 8月の小児科の入院数が多い理由は？

指定管理者： 親子でコロナに罹患した場合、市立川西病院では小児科があるため、家族全員で受け入れており、その結果小児科が増えたものと考えている。

- 委員： ノロウイルスやロタウイルスに対しても感染対策できているか。
- 指定管理者： 感染症に対しては、感染管理の認定看護師が中心となりコロナ流行前から適切に対応している。それが功を奏してコロナに対してもしっかりと対策することができた。
- 委員： 空気感染などにも対策できているか。
- 指定管理者： 空気感染するような感染症に関しては保健所管内で情報共有されており、近くの病院で発生した場合などには連絡が来るため対策ができるが、そういった情報が無ければ対策は難しいものがある。
- 委員： 入院患者数や手術件数など、コロナによる影響はあったか。
- 指定管理者： クラスタが発生した病院では著しく手術件数が減ったなど耳にすることがあるが、市立川西病院では、影響はほぼ無かったと考えている。

イ. 看護体制について

- 指定管理者： 令和3年の4月1日に、看護師を166人に増員できたことが大きな要因となり、10月1日から7対1の看護体制に回復できた。このまま来年8月末の閉院まで維持していく。また新病院についても、7対1を継続していく。

ウ. 地域貢献について

- 指定管理者： 前回の市民モニター会議時で質問のあった、感染管理の認定看護師による感染予防研修の回数は、令和2年度の実績は4回だった。また、コロナワクチンの予防接種時の感染管理や、集まった看護師の指導目的で実技研修を合計4回行っている。
- 今年度に入ってから、市民医療講座や出前講座など、委員の方にもお声掛けを頂いたものの、コロナの第4波、第5波の影響を考えると自粛しなければならず、開催できなかった。

- 委員： 地域のイベントなどにも、看護師を派遣してもらっている。
- 指定管理者： 現時点ではコロナの影響で引き受けられないこともあるが、一庫のマラソン大会で救護目的での看護師の派遣など、地域の要望にはできるだけ答えていきたいと考えている。

(2) 外来患者及び入院患者アンケートの集計結果について

資料4「外来患者アンケート」資料5「入院患者アンケート」に沿って、指定管理者から説明

指定管理者： 外来患者アンケートは令和3年11月25日に実施し、配布数250件に対し回収数は207件で、回収率は82.8%であった。

自由意見では、駐車場など施設に関する要望や、病院移転に対するご意見が多く寄せられた。職員へはお褒めのお言葉とご指摘のお言葉を多数頂戴しており、接遇改善につなげていきたい。

入院患者アンケートは令和3年11月4日～12月3日に実施し、配布数150件に対し、回収数は93件で、回収率は62.0%であった。回収率が低い理由としては、コロナによる面会中止で患者本人にアンケート依頼するしかなかったことが影響していると考えている。

自由意見では、病院食の充実に関する要望が多く寄せられ、外来同様、職員へのご意見も多く寄せられた。

入院、外来とも集計結果については、例年と大きな変化は無く、どの質問についても、概ね半数以上が「大変良い」「良い」の回答を頂いた。

今回のアンケート結果を院内で共有し、医療の質や患者サービスの向上に努めるとともに、患者様が安心して受診できる市立病院づくりに努めていく。

委員： 医療水準について、「大変高い」と「高い」の合計が50%台と低いのは、病院の立地の影響で良い医師を採用できないからか？

指定管理者： 医師については大学の医局人事で派遣してもらっているため、医局関連のその他病院と水準は同じであり、市立川西病院だけが医療水準が低い訳ではなく、新病院も同様である。

委員： 医師の確保等、むずかしいとは思いますが「大変高い」と「高い」の合計が70%台になるよう目指して欲しい。

まとめ： 本日の意見、提案で、改善可能なものは速やかに改善に取り組んでいただきたいと思う。

この会議がはじまった頃、市民病院の評判はよくなかったが、アンケートの結果などをみていると、ハードの面で苦労しながらも良い評価がでてきているのは、努力が報われてきたのだと感じている。

市民の安心のために、今後も医師確保や看護体制7対1の維持に努めてもらいたい。

3. 閉会